

# 平成18年6月定例県議会（本会議）における答弁要旨

（質問日：平成18年6月29日）

総務部財政課

質問者	質問要旨	答弁要旨	答弁者
<p>民主党 田中信行 議員</p>	<p>1. 財政問題について （1）「千葉県行財政システム改革行動計画」を完全に実行しても、3年間はもちろんのこと、県債残高が減少するターニングポイントが見えてこないが、この行動計画で財政再建ができると考えているのか。</p>	<p>民主党の田中信行議員の御質問にお答えをいたします。いつも県の財政問題について、たいへん熱心に御指摘いただいていることに、まずは御礼申し上げなければいけないと思いますが、「あいさつ」で、今回、財政問題に触れなかった、とおっしゃいますけれども、財政再建が我が県にとっては最重要課題であることについては、変わりございません。</p> <p>いま議員、御指摘のとおり、岡山県、それから茨城ですか、そして千葉が、基金のない3つの県ということが、まさにその苦しさを示していると、逆の言い方をすればですね、申し上げられるのではないかと思います。</p> <p>いま財政課長に聞きましたら、平成10年以前に、もうそういう状況にあったということで、私が就任したときにも、本当にここから脱却しなければいけないということ、たいへん思いました。</p> <p>しかし、ご存知のとおり、状況の中で、たいへん財政当局、苦勞に、苦勞を重ねて、努力をしているところでございます。</p> <p>御質問は、県債残高が減少するターニングポイントが見えてこないが、というこのところが一番のポイントかと私は思っています。県の、千葉県の「行財政システム改革行動計画」で、財政再建ができると考えているのか、という御質問でございます。</p>	<p>知事 堂本暁子</p>

質問者	質問要旨	答弁要旨	答弁者
		<p>本当にそれは、そうできるということを確信して、この計画を立てている訳ですけれども、そして、県庁を挙げまして行財政改革に取り組んできた結果、17年度から、初めてプライマリーバランスが黒字を達成したほか、臨時財政対策債などの特殊な地方債を除いた、いわゆる建設地方債等の残高がやっと減少に転じてまいりました。</p> <p>いま御質問の中で、プライマリーバランスが黒字になったからといって、赤字の状況が変わる訳ではない、という御指摘でございました。</p> <p>まさに、そうした視点からの御指摘から言えばそういうことでございますけれども、果たしてどうやって、この基金ゼロから脱却するのかということです。</p> <p>現在、一番問題は、去年、たいへん煮え湯を飲まされたと思っておりますけれども、税や交付税の身替りである臨時財政対策債などの発行を余儀なくされている中で、県の努力ではどうすることもできない。これは本当に、県債残高の総額を減少させることが極めて困難でございます。</p> <p>国がいま、議員、御指摘のとおり、交付税の減少、税収が増えてもですね、それを上回るような減少、これは御指摘のとおり、国の方のたいへんに地方の財源を減らせと、財政を切ってくるという、このことに対して、全国知事会、そして地方六団体で、「総額を断固として切るな。」ということの陳情は重ねているわけですけれども、その状況の中で、とても困難だと思っております。</p>	<p>知事 堂本暁子</p>

質問者	質問要旨	答弁要旨	答弁者
		<p>私どものやり方で、もっと工夫が必要だということをございましたらね、そのところは改めていかなければならないと思いますが、少なくとも、この「行動計画」に基づいて、あらゆる手段を講じて、財政再建に取り組んでいきたい。</p> <p>そして、真に地方が自立していくために必要な、大幅な権限と、それから財源移譲を国に対しても強く求めていきたい、というふうに思っております。</p> <p>こここのところは、決して私ども、特に担当者は、ないがしろにしておりません。出せるだけの知恵を出してやっているつもりですので、その点は御理解いただきたい、というふうに思っております。</p>	<p>知事 堂本暁子</p>

# 平成18年6月定例県議会（本会議）における答弁要旨

（質問日：平成18年6月29日）

総務部 財政課

質問者	質問要旨	答 弁 要 旨	答 弁 者
<p>民主党 田中 信行 議員</p>	<p>1. 財政問題について (2) 県債管理基金について ア 他のほとんどの道府県では、満期一括償還積立金のほかいわゆる減債基金への積立てがあり、年度間の地方債償還財源の不均衡に対応しているが、本県も同様に、定時償還も含めたすべての地方債の償還を計画的に管理すべきと思うが、見解を伺う。</p>	<p>1 減債目的の基金については、できることならば将来の財政運営に備え少しでも積み立てることが好ましいとは考えますが、可能な限りの財源対策を講じても当初予算において財源不足が生じるなど、現在の県の財政は、残念ながら減債基金に積立を行える状況にはございません。</p> <p>2 一方、満期一括償還のための基金は計画的に積み立てているところでございまして、今後とも県債の償還について適切に管理してまいりたいと考えております。</p>	<p>総務部長 植田 浩</p>

# 平成18年6月定例県議会（本会議）における答弁要旨

（質問日：平成18年6月29日）

総務部 財政課

質問者	質問要旨	答 弁 要 旨	答 弁 者
<p>民主党 田中 信行 議員</p>	<p>1. 財政問題について                      (2) 県債管理基金について                      イ 将来の償還のために積み立てた県債管理基金について、有価証券での運用や繰替運用ができることとしている条例は矛盾と危険をはらんでいるが、見解を伺いたい。</p>	<p>1 議員ご指摘のとおり、県債管理基金条例では基金に属する現金について、第3条第1項で「金融機関への預金その他最も確実かつ有利な方法により管理しなければならない。」とした上で、同条第2項及び第5条で必要に応じ県債証券その他最も確実かつ有利な有価証券に代えあるいは歳計現金に繰り替えて運用できると規定されているところです。</p> <p>2 基金の管理については、これらの規定により、預金及び国債等の債券で運用しており、今後とも、安全性を最優先としたうえで、有利な運用を行ってまいります。</p>	<p>総務部長 植田 浩</p>

# 平成18年6月定例県議会（本会議）における答弁要旨

（質問日：平成18年6月29日）

総務部 財政課

質問者	質問要旨	答 弁 要 旨	答 弁 者
<p>民主党 田中 信行 議員</p>	<p>1. 財政問題について (3) 平成15年度に県債の満期一括償還のための積立率を6パーセントから3.7パーセントに変更し、積立期間を20年から30年に延ばしたが、知事は、この借金の先送りについてどのような見解を持っているのか。</p>	<p>1 本県が発行している満期一括償還方式の県債は、償還期間を30年として国から許可されているものであり、また、多くの都道府県においても償還期間を30年として積立てが行われていることから、積立ルールを変更したものでございます。</p> <p>2 財政運営としては、後年度の負担をできるだけ軽減することが望ましいと認識しておりますけれども、県財政の状況に鑑み当面この積立ルールにより積み立ててまいりたいと考えております。</p>	<p>総務部長 植田 浩</p>

平成18年6月定例県議会（本会議）における答弁要旨

（質問日：平成18年6月29日）

部（局・庁）・課（室）名 総務部財政課

質問者	質問要旨	答弁要旨	答弁者
<p>民主党 田中 信行 議員</p>	<p>1. 財政問題について （4）償還に対する交付税措置が20年であるのに対し、積立期間を20年から30年としたことにより、交付税の先食いが生じ、最後の10年間で返さなければならない県債残高は、平成17年度現在で1,000億円を超えているとのことだが、この実情についてどのような見解を持っているのか。 また、この実情を県民に知らしめる必要があると思うがどうか。</p>	<p>1 地方債の償還に係る交付税措置は、国が想定した一定の償還条件の下で理論的に算定され、そのほとんどが20年間で計算されますので、本県においても交付税との差は生じております。 2 県債の償還は交付税のみを財源としているものではなく、一般財源全体で行いますので、今後とも、県債管理を適切に行っていくとともに、本県の財政状況の実情については、できるだけ県民の方々に分かり易くお伝えできるよう努めてまいりたいと考えています。</p>	<p>総務部長 植田 浩</p>

# 平成18年6月定例県議会（本会議）における答弁要旨

（質問日：平成18年6月29日）

総務部財政課

質問者	質問要旨	答弁要旨	答弁者
<p>民主党・再質問 田中信行 議員</p>	<p>1. 財政問題について                      (1) 財政の問題です。これはいま財政問題につながることですけれども、知事さんね、やっぱり、「行動計画」にしろ、千葉県の「財政健全化プログラム」にしろ、「財政再建プラン」にしろ、それは皆が我慢をして痛みを伴うんだったら、光明が見えない限り、ここまで我慢したら県債が減り始めてくる、そうしたら千葉県はよくなるんだから皆で我慢しよう、皆で削減しようというのは分かるんだけど、いま指摘したように知事さん、先がまったく見えない先が。                      特にですね、この一般職員の給与削減にいたっては、来年になっても今の状態は、今の県政の予測でいけば全く続きます。                      当初は120億円ぐらいの成果があったけれども、いまいろんなことで60億円ぐらいにしかなくなってません。                      60億円なんてのは、住宅供給公社でいきなり60億円出てきたり、今回の予算の中で、工業用水で110億円を平成17年予算をして繰り入れを予定していたけれども、実際、17年度に入れなかった。</p>	<p>まあ、たいへん難しい問題でございましてね、知事の立場として、それでは運営に、まあ財政の問題に入ってしまうんですけど、運営にあたって、これ以上削減した予算を、人件費以外ですすね、いま議員の御指摘の県庁職員が全部で、警察官そして教員まで入れると6万人を超えるというたいへん大規模な。ですから人件費というのが、ほとんど、たいへん大きな割合を占めているのが千葉県でございます。                      そういう中で、人件費の問題を、もしこれ以上、そここのところで私どもが大きくいたしますと、他のところの予算というのが、またさらに切り込んでいかなければならないようなことになっていく。                      そういう中でですね。たいへん調整という形でおっしゃいましたけど、工夫をしていることは事実でございます。そして、そうしなければ、やはり経済の活性化その他のことで、一方で福祉の問題もあり、いろいろな予算をつけるべきだっていうお話は、もう縷々、出ていますとおりでございまして、それだけそここのところのどう調整をしていくかというところが、県の運営ということでございますけれども。</p>	<p>知事 堂本暁子</p>



質問者	質問要旨	答弁要旨	答弁者
<p>民主党 田中信行 議員</p>	<p>18年度にも予定は入っていない。けど180億円が赤字だというふうだね。そういう意味でね、私は、決算や予算の中をきちっとしていかないと、なかなか県民が、県政の、いわゆる今の財政の状況が分からない。</p> <p>私は、なんで黒字を2回、実質のないといったか、第一問で言いましたように、実際に最初から、多額な交付税と大きな借金を予定していますから、その中で、なおかつ足らない分で、足りた、足りないだ、という話です。で、30億残った、25億、見通しがついただけの話。けど、この黒字は、33億、25億の黒字の見込みはですね、一人歩きをしているんです。</p> <p>特に知事さんが、当初予算でも、財政再建の話を3行半しかしてません。全く千葉県では、財政問題が消えかかっていますよ。本当はたいへんなんだけど、なかなか論議にならない。今回もこの当初も、それから6月も含みまして、なかなか財政議論にならない。やっぱり黒字というのはですね、どんな形にしろ一人歩きをしていく。やっぱり私は決算や予算は、きちっと実情にあったものを表していかなければ、粉飾とは言いませんけれども誤解を招きやすい。</p>	<p>やっとなですね、一人歩きをするのは困ります。しかし、プライマリーバランスということでは、やっとな少し黒字になってきた。</p> <p>そして、県債の方も、いくらかですね削減の方に向かってきているのが現状で、あまりにも最初から大きな公債費というのを抱えてスタートしていますから、それがやっとなそうになったときに、これは国の方からの交付税の問題、その他があったということで、去年はつらい思いをいたしました。これから、まさにいい方向に向かうように是非していきたいと思っている矢先でございますが。もう少し総務部長にも加えてもらいたいと、追加してものを言って欲しいと思いますけども。</p> <p>もひとつ警察官の問題ですけども、それではその6万人の中でですね、警察官だけを優遇してやっとないけるのか、教師も同じにたいへんです。まさに障害者の介護の問題もたいへんでありますし、いろいろたいへんです。県庁の職員の中で、やはり甲乙つけがたいと私は思っています。</p> <p>そして、警察官の使命感、そして本当に殉職とおっしゃいました。この間も、おひとり亡くなられましたけれども、そういったことも認識してないわけでは全くございません。</p>	<p>知事 堂本暁子</p>

質問者	質問要旨	答弁要旨	答弁者
<p>民主党 田中信行 議員</p>	<p>今回の18年予算も180億足りない、17年度もきましたけれども、本来、工水の110億を足していれば、70億の足らなさ、不足ですんではずです。</p> <p>そういうことを含めましてですね、意図的にいろんなことを調整をすることも大事かもしれないけれども、実態を県民に分かるようなかたちで、きちっと情報公開をしなければ、予算・決算なんか、私たちだって必死になって見なければ、いろんな資料を見なければ分からない訳ですよ。</p> <p>そういう意味で、私は、予算・決算、簡単な黒字を出していく、成果として、その見込で黒字を出していくということに非常に疑義を感じたので、先ほど指摘をしました。</p> <p>実際に、私は財政再建、いや今回の行動計画が、私は財政再建につながらない。ちょっと640億円も増収をしながら、この体たらくであると、本当に千葉県はどうなるんだろうと。</p> <p>私は、県税が増収した時点ですすね、本当はよくなるかと思った。やっぱり構造的に大きな間違いがあるんじゃないでしょうか。その点もう一度知事さんにお聞きします。</p>	<p>しかしここは、私たちは、何とか耐えて、そして大きなばねを、またなんとか、財政、いま景気も少し上向いてきた。このところで、もう少し大きく飛躍をしていきたいというふうに願っているところでございます、決して警察官の方をないがしろにするというつもりはございません。</p> <p>しかし、実際問題としては、たいへんに苦しい県の運営だということだけは是非、御理解をいただきたい、というふうに思います。</p> <p>あとは部長の方から…。</p>	<p>知事 堂本暁子</p>

総務部財政課

質問者	質問要旨	答弁要旨	答弁者
<p>民主党 田中信行 議員</p>		<p>いま知事から答弁がございましたことに尽きる とは存じます。これまで最大限の財政再建のため の努力を続けておりますけれども、客観的な情勢 がこういうことでございますので、なかなか独自 でやり切れるものではないという部分。国の方の 交付税の制度の改革等を含めてでございますので、 そこの分を理解いただきたい、というふうに 思っております。</p> <p>それから、数字の県民の方々への見せ方でござ いますけれども、もちろん私ども、意図的に調整 しているというつもりはございません。</p> <p>ただ非常に1兆4千億という大きな予算、様々 な指標もある中で、どこをどういう形で県民に お見せすれば一番誤解のない形になるかというこ とを日々苦労はしているところでございますけれ ども、議会で、議員からも縷々、御指摘いただ いております。そのあたりを十分踏まえて、今後も さらに改善を続けていきたい、というふうに思っ ております。以上でございます。</p>	<p>総務部長 植田 浩</p>

平成18年6月定例県議会（本会議）における答弁要旨

（質問日：平成18年6月29日）

部（局・室）課（室）名 総務部管財課

質 問 者	質 問 要 旨	答 弁 要 旨	答 弁 者
<p>民主党 田中信行 議員</p>	<p>2. 随意契約については、契約の公正、適正の観点から実態の詳細な調査が必要であり、不適切な場合は競争入札等に替えていくべきと思うがどうか。</p>	<p>1 競争性の向上と調達手続きの透明化を図るため、一般競争入札の拡大を図ることは、大変重要であると認識しております。</p> <p>2 このことから、千葉県行財政システム改革行動計画の中で、随意契約で行なわれている業務委託契約については、随意契約理由や当該サービスを提供する企業等の存在を精査し、競争入札への転換を進めることとしております。</p> <p>3 具体的には、全庁連絡会議を立ち上げ、工事又は製造の請負については1件250万円以上、その他のものについては1件100万円以上の随意契約について実態調査を行なうこととしており、その結果を基に今年度中には必要な見直しを行ないます。</p>	<p>総務部長 植田 浩</p>

平成18年6月定例県議会（本会議）における答弁要旨

（質問日：平成18年6月29日）

部課名：環境生活部水質保全課

（一般）

質問者	質問要旨	答弁要旨	答弁者
<p>民主党 田中 信行 議員</p>	<p>3. 硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素の地下水汚染について (1) 硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素の地下水汚染について、どのように認識しているのか。</p>	<p>1 硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素の地下水汚染については、大きな問題であると認識しています。</p> <p>2 平成11年度から16年度までに実施した地下水測定計画に基づく調査結果では、1,403本の井戸水のうち、189本で環境基準である10ミリグラム・パー・リットルを超え、その最大値は77ミリグラム・パー・リットルでありました。 地域別に見ると、県内の北部地域において、環境基準を超える割合が高く、40パーセントを超える地域もあります。</p> <p>3 このように、広い範囲で地下水汚染が確認されており、畑地への施肥、畜産ふん尿や生活排水など汚染源が多岐にわたることから、地域全体で改善に向けて、取り組んでいかなければならない課題であると認識しています。</p>	<p>環境生活部長 加藤 勝</p>

平成18年6月定例県議会（本会議）における答弁要旨

(質問日：平成18年6月29日)

部課名：環境生活部水質保全課

(一般)

質問者	質問要旨	答弁要旨	答弁者
<p>民主党 田中 信行 議員</p>	<p>3. 硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素の地下水汚染について (2) 健全な水循環確保の観点からも計画と対策と実行が必要と思うがどうか。</p>	<p>1 硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素による地下水汚染の対策につきましては、汚染のメカニズムを解明するため、東庄町、芝山町のモデル地区に観測井戸を設置して、平成15年度から3年間にわたり、地下水の流動状況などの調査を実施してきております。 また、農業面からの環境負荷の軽減の取り組みとして、ちばエコ農業の推進、適正施肥及び法に基づく家畜排せつ物の適正処理の推進などを行っているところです。</p> <p>2 今後、モデル地区におきまして、投入する施肥等の量と硝酸性窒素等との相関関係など、量的な面から見た地下水質の変化を測定するため、モニタリングを引き続き実施し、汚染のメカニズムをさらに解明するとともに、農林等の関係部局及び市町村と連携して、地域の実情に応じた効果的な削減計画の策定に向けて検討してまいりたいと考えております。</p>	<p>環境生活部長 加藤 勝</p>

平成18年6月定例県議会（本会議）における答弁要旨

（質問日：平成18年6月29日）

総務部 総務課

質問者	質問要旨	答 弁 要 旨	答 弁 者
<p>民主党 田中 信行 議員</p>	<p>4. 警察行政について (1) 去年は、給与減額の延長や引下げ勧告を実施しているが、県民の安全安心の確保のためには、警察官の待遇改善に努力しなくてはならないと考えるが知事の見解はどうか。</p>	<p>1 千葉県警察官は、本当に他の県に比べるとはるかに多くの凶悪犯罪を担当し、成果をあげているということだと思いますと大変心苦しいのですが、警察官の給与については、他の県職員と同様に毎年の人事委員会勧告を尊重し実施することにより、適正な給与水準を確保することが基本です。</p> <p>2 昨年度は、民間給与の動向を反映して、引下げ勧告が行われましたが、そのような場合でも勧告どおり実施することが必要と考えてはおります。</p> <p>3 一方、給料の減額措置は、県の財政状況が依然として非常に厳しいことから、非常時の措置として止むを得ないと考えていただき、ぜひ御理解をいただきたい。</p> <p>4 警察官の方々は一人ひとり、県民の安全安心を確保するために、使命感を持って働いてくださっております。何とか待遇改善に早くたどり着きたいと思っておりますし、そのためには財政状況を改善していかなければそれができないというのが現状でございます。よろしく御理解をいただきたいと思っております。</p>	<p>知 事</p>

平成18年6月定例県議会（本会議）における答弁要旨

（質問日：平成18年6月29日）

総務部総務課

質問者	質問要旨	答弁要旨	答弁者
<p>民主党 田中 信行 議員</p>	<p>（再質問） 4. 警察行政について 警察官は、殉死をも覚悟して使命感と責任感がなければ続けて行けない。行動計画でここまで我慢してもらえればという指針を出さない限り、痛みだけが伴う話でなかなか理解ができない。 給与の削減というのは、大変重いものだということをもう一度認識していただきたい。</p>	<p>1 県職員6万人の中で、警察官だけを優遇してやっていけるのか。教員も同じに大変、障害者の介護の問題も大変であり、甲乙つけがたいと私は思っている。 2 警察官の方をないがしろにするというつもりはないが、実際問題としては県の財政運営は大変苦しいということだけはぜひ御理解いただきたい。</p>	<p>知 事</p>



